

登山 月報



JMSCA 登山月報 第665号 令和6年8月15日発行



『白山 弥陀ヶ原』 写真提供 石川県山岳・スポーツクライミング協会 遭難対策委員長 甲部 芳彦



No.665

速報 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)	2
報告【2023年度山岳レスキュー講習会(積雪期・東部地区)】 ..	3
報告【2023年度全国遭難対策協議会】	4
かわる国民スポーツ大会! かえよう意識!	5
Enjoy Climbing	7
2024 JMSCA自然保護委員総会 報告	8
JMSCA自然保護委員会フィールド研修会 報告	8
福井県山岳連盟 自然保護委員会のSDGsな活動	9
JMSCA、表紙のことば	9

2024年8月5日から10日までの6日間、フランス・パリのル・ブルジェ・スポーツライミング場にて熱い戦いが繰り広げられた。

スポーツライミングにとって2回目のオリンピックとなる本大会では「ボルダー&リード」と「スピード」の2種目が実施され、日本からはボルダー&リードに男女各2名の選手が出場した。

前回の東京大会では新型コロナウイルス感染症の影響から無観客での開催となったが、今大会は約6,500人の観客のもと、スポーツライミングにとって初めての有観客でのオリンピックとなった。ワールドカップや世界選手権とも違う、世界中の注目と大きな熱狂に包まれながら開催された。

【出場選手(ボルダー&リード)】

男子：榎崎 智亜、安楽 宙斗

女子：森 秋彩、野中 生萌



■男子

準決勝・ボルダーは安楽が唯一の2完登を果たし69.0ポイントで1位、榎崎も2位に続いた。リードでも安楽は実力を発揮し1位で決勝に進出。榎崎は惜しくも結果を伸ばせず10位で準決勝敗退となった。

決勝・ボルダーでも安楽は69.3ポイントを獲得、1位の状態でリー

© Drapella / Virt / IFSC



ドに臨んだ。リードでは76.1ポイントを獲得、最終的に145.4ポイントで銀メダルに輝いた。

順位	選手名		成績(決勝)	成績(予選)
1	トビー・ロバーツ	イギリス	155.2	122.2
2	安楽 宙斗	日本	145.4	137.1
3	ヤコブ・シューベルト	オーストリア	139.6	98.8
10	榎崎 智亜	日本	—	66.5

■女子

準決勝では森が4位、野中が9位。東京大会で銀メダルを獲得した野中は残念ながら準決勝敗退となった。

決勝・ボルダーでは森が苦戦する場面もあったが、3課題目を完登し39.0ポイントの7位に。リードでは最高高度に到達し96.1ポイントを獲得したもの、最終的に135.1ポイントで4位となり惜しくもメダルを逃した。

順位	選手名		成績(決勝)	成績(予選)
1	ヤンヤ・ガンブレット	スロベニア	168.5	195.7
2	ブルック・ラバトゥ	アメリカ	156.0	155.8
3	ジェシカ・ビルツ	オーストリア	147.4	156.9
4	森 秋彩	日本	135.1	150.1
9	野中 生萌	日本	—	115.5

選手からのコメント

●安楽 宙斗

パリオリンピックでは2位でした。そして、銀メダルを獲得しました。この大会まで色々なことを考えて集中してトレーニングしてきましたが、目標としていた1位にはなれませんでした。ですが、この複合種目で2位と言う位置につけたことはとても成長を実感しました。このオリンピックまで今まで以上に集中して練習に取り組んできましたが、まだ一位には及ばないと今回思い知らされました。これからのワールドカップに向けてもっと勝ちにこだわって練習に励みたいと思います。

オリンピックでは多くの応援をありがとうございました。

●榎崎 智亜

パリオリンピックが終わり、最終結果は10位と納得のいく順位を取る事は出来ませんでした。

東京オリンピックで4位という失敗から3年間様々な経験や努力を積み成長をして来たつもりでしたが、このような結果に終わってしまいとても残念です。予選初日から徐々に身体のコンディションも良くなり、最後に決勝の舞台で最高のパフォーマンスを発揮して世界中に感動を届けたかった。もっと登りたかったです。

東京オリンピックからフォーマットが変わり、ライバルも変わった中でこの舞台にもう一度挑戦する事が出来たのは近くで支えてくれた家族、友人、サポートスタッフの方達のお陰です。本当にありがとうございます。

自分は納得のいくパフォーマンスで終わる事は出来ませんでした、

今回スポーツライミングにとって初めての有観客での試合となり世界中の人達にこのスポーツの面白さ、素晴らしさが届いたと思います。

次のロサンゼルスオリンピックまでの4年間は更に厳しい道のりになると思いますが、もう一度チャレンジしたいです。

応援ありがとうございました。

●森 秋彩

人生初のオリンピックは、予想以上の盛り上がりでした。歓声に背中を押され、いつも以上に力を出し切ることができました。プレッシャーや不安に押しつぶされそうになる時もあったけれど、最初から最後まで自分のスタイルを崩さずに終えられたことに、心身の成長を感じました。

メダルまで一歩及ばすとても悔しいですが、今回の経験を通して得られた教訓や反省点を活かし、今後より強いクライマーになれるよう努力していきたいです。また、競技力のみならず人間力のある大人になれるよう日々精進します。

●野中 生萌

今回のオリンピックは最終ラウンドまで駒を進めることは出来ませんでした。その差は1ポイントにも満たない僅かな差でしたが、そこで失った物はとても大きく感じています。

何よりもここまで応援・サポートしてくれていた皆さんに結果として恩返しできなかったことをとても悔しく思います。ですが、このような経験も糧にしてこれからもしっかりと努力を続け、成長していきます。

本当にたくさんの応援、ありがとうございました。

報告【2023年度山岳レスキュー講習会(積雪期・東部地区)】

遭難対策委員長 服巻辰則

2024年6月21日(金)～23日(日)に富山県立山町の国立登山研修所にて、山岳レスキュー講習会(無雪期・西部地区)を開催した。例年、9月に実施しているが研修所の改修工事の都合で6月の開催となった。6月でも屋外の人口岩場はすでに改修工事が始まっており利用できないため、クラス編成を見直し、体育館の人口壁など室内で講習可能な内容とした。

講習会参加者数は、クラス1(受講生9名)、クラス2(受講生7名)、講師・スタッフ等(13名)の計29名となった。

例年と比べると応募者が少なかったが、募集のクラス数が2クラスと例年より少ないこと、例年と異なる日程であったこと、施設の都合で講習内容を縮小したことなどが原因であったと考えられる。

クラス1は、登山医科学委員会の協力を得て、ファーストエイドを中心とした講習を行い、初期評価から応急処置を学び、搬送やビバークの判断、実践まで広く学ぶコースとなっている。

クラス2は、屋外人口岩場が利用できないことから体育館の人工壁で岩場救助にかかる基礎技術の講習に絞った。基本の引き上げ、引き下ろし、介助懸垂などの基礎を学んだ後に、リーダーレスキューの流れを通して実習した。

感想

クラス1・富山県 薬師寺芽生

私は普段、大学山岳部で活動しています。安全に登山をすることを目的の一つとしていますが、過去には事故や怪我をすることもありました。部内でも安全対策に努め体力づくりやセルフレスキューに関する勉強会を開催してきましたが、本などを用いた内容になっていました。そこで部に還元できるような学びをしたいと思い、この講習会に参加しました。

3日間を通して、山での怪我や事故に特化した内容での講習を受けることができました。特に怪我の対処の仕方だけでなく、まずは自分の身の安全を確かめることや救助要請の要否を適切に判断することなどを学ぶ機会は少なくともとても勉強になりました。また、普段の山行で所持する救護用品では不足していることが分かり、部内でも見直す必要があることに気が付くことができました。講習を通して学んだことを今後の部活動に生かしていきたいと思います。

感想

クラス1・千葉県 大津政雄

これまでロープを使ったセルフレスキューは、都岳連の講習あるいは所属山岳会のトレーニングで身に付けてきた。あやふやな技術を再確認する意義は大きいも



のと、毎年の訓練は欠かさなかった。安全な場所まで要救助者を移動させるロープワークの重要性に疑う余地はない。

一方、これまで日赤などの救急講習に参加してきたものの、街中ではなく山という特殊な環境下で、救助に先駆けて行すべきファーストエイド訓練を受講する機会に恵まれなかった。今回初めて受講する機会を得たJMSCAの講義は、医師、看護師、山岳ガイド、山岳救助隊の現役メンバーという多彩な講師陣により、多くは理解した内容であったものの、講義を受けながら目から鱗が落ちるような技術や対応が随所にみられた。

具体的な例を幾つか挙げると、応急手当としては、外傷時の感染予防には、消毒薬ではなく、ペットボトルのキャップに一つ小さな穴を開けて、そこから出る水の勢いで洗浄することの重要性が強調、大腿骨固定の際には、ストックなどの副木ではなくエアマットを巻き付け、三角巾で2か所固定してから、携帯式のエアポンプで空気を入れると安定感が増幅。骨盤固定では、懸念される大出血を防ぐため、両膝の固定に加えて、両足首をわかん結びで縛ると足全体の固定化などなど。

道具の活用法としては、体温維持のために、単に被るだけではないレスキューシートの活用法は即効性があり、保・加温効果の高いものであった。加えて、プラティパスにお湯を満タンではなく少量入れ、布で覆って湯たんぽ代わりにすると、体表面に隈なく当たってより保温効果が高まることを実感。

最後に、ヘリ救助の際のダウンウォッシュ対応について、救助者や装備の飛散について頭は行くものの、要救助者へのリカバリーの大事な指摘もあった。習得した技術を使う場面が来ないにこしたことはないが、毎年の訓練は欠かさず、スムーズに対応できるようにしていきたい。

感想

クラス2・東京都 秋永名美

1月の積雪期の講習に参加した際、実践的でとても充実した学びを得たため、無雪期にも必ず参加したいと考えていました。年数回の所属会の救助訓練ではなかなか覚えきれないため、集中して身につけようと思い今回は参加しました。リーダーレスキューの概念や手順ごとの理由を丁寧に教わり、特に、ロープ切断から介助懸垂までの詳細の流れを何度も実践できたのは大変貴重な機会です。また、受講生の人数に対して十分な講師・スタッフの配分だったのも良かったです。受講生ができる

だけ自力で動く・考えるように見守ってくださり、手順を追うのに精一杯なときは、実際に想定したアドバイス（例えば、周囲を見ているか、要救護者の様子を気にしているか等）をいただきました。JMSCAの講習では、全国の参加者と交流でき、様々な山域や技術について知る良い機会となります。今後も仲間に受講を勧めたいですし、学んだ内容を定期的に復習して、所属会にも還元していきます。

感想

クラス2・埼玉県 青木健太郎

講師陣は鬼のように厳しく、全国から集う受講生はいずれもクセの強い猛者ぞろい。まさに「修羅の世界」だから、心して行くように。

この研修に参加するにあたって、昔を知る山岳会の先輩にアドバイスを求めた際のコメントです。

ひょっとしたら自分の技量では途中リタイヤになるかもしれない…仕事の都合でやむなく遅刻することとなった私は、緊張度MAXで会場である国立登山研修所の門をくぐりました。

実際の講習に入ってからはずっとびっくり。

講師・受講生のみなさんはとても親しみやすく、遅れて参加した私にもしっかりとキャッチアップできるように丁寧に指導くださり、冒頭の前評判は良い意味で裏切られました。

今回の講習では、沢山の技術を教わりました。講師の説明は極めて論理的で分かりやすく、かつ受講生の疑問に対しても理論と現場での運用について即座に回答をいただくことで理解がさらに深まりました。

とはいえ、かなりのボリュームでもありますから100%消化しきっているかは難しいところです。しっかりとテキストでの復習の機会を設けるとともに、所属山岳会のメンバーにも共有することで何度も反芻し、自らの血肉とするべく努めてゆきたいと思います。

今回は講師と一緒に受講した皆さんに恵まれ、大変楽しく実りある受講となりました。ありがとうございました。今後またこのような講習の機会があれば是非参加させていただきたく、よろしくお願いします。

なお、本事業は、日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成を受けて開催された。

スポーツくじ



報告【2023年度全国遭難対策委員長会議】

遭難対策委員長 服巻辰則

2024年6月29日（土）～30日（日）に東京都の東京会館で全国遭難対策委員長会議を開催した。コロ

ナ禍からの継続で、現地会場とZOOMの併用で開催した。例年は、現地会場に全国の都道府県委員長に加えてJMSCA遭難対策委員会の常任委員と専門委員も参加していたが、JMSCAの財政難もあり最小限の参加とすべく現地会場にはJMSCA遭難対策委員会の常任委員と参加していただける地方委員長のみとした。

新型コロナの再流行などで当日キャンセルも複数あったが、参加者は37名（会場15名、ZOOM22名）であった。

研修テーマとして、山岳安全対策ネットワーク協議会からコンパスについて（インフカム・今様、ココヘリのGPS新サービスについて（オーセンティックジャパン・清水様）を取り上げた。

コンパスについては「警察等の地方との連携状況と連携が進まない地方の事情」などに、ココヘリでは「規約変更による遭難救助サービスの内容について」に参加者の興味が集中した。山岳共済保険の説明も予定していたが、講演予定者の体調不良による欠席のため基本的な質問の受付に留まった。情報共有として、各地方の活動とインバウンド対策の2テーマで行った。懇親会も含め、地方と中央、地方間の情報交換も有意義であり、現地会場での実施について今後も継続していきたいと考えている。

報告【2023年度全国遭難対策協議会】

遭難対策委員長 服巻辰則

2024年7月12日（金）文部科学省の講堂で開催された。全国山岳遭難対策協議会は、スポーツ庁、JMSCA、警察庁、消防庁、環境省、気象庁、国立登山研修所が主催して、山岳遭難の原因について研究協議し、今後の遭難対策の具体的施策に役立てるために毎年開催されている。

今年度は、警察庁からは山岳遭難実態の統計について、消防庁からは大津市消防から中低山域での活動モデルについて報告があった。

JMSCA担当枠としては、JMSCAも参加している日本雪崩捜索救助協議会の活動について、同協議会理事の出川あずさ氏から「日本の雪崩捜索救助を次のステージに」と題して、紹介を行っていただいた。

午後は、静岡大学教授の村越真氏を座長とし、「外国人登山者から考える日本の減遭難について」と外国人登山者の特性や各機関の取り組みが紹介された。





本年4月から始まった、国民スポーツ大会都道府県予選会、7月に開催されたブロック大会を経て、10月12日(土)～14日(月)の3日間、佐賀県多久市、佐賀県立多久高等学校で開催される「SAGA国民スポーツ大会スポーツクライミング競技」の初日、弊協会として初めてとなる「ナイトゲーム」が実施される。

実施にあたっては、主管連盟を中心に多くの課題を整理し、アスリートファースト、競技運営スタッフへの負担軽減等を図りつつ、実現にいたった。

その一つには、競技開始時間の繰り下げと、宿舍⇄競技会場間のシャトルバスの運行による、他種別のナイトゲーム観戦の実現を図り、翌日の競技日程へも選手・監督等への負担が生じないタイムスケジュールを組み、多くの観客が直接競技を観戦できるよう配慮を行った。

そのほかにも、SAGA国スポにおいては「競技の見える化」を推進するため、競技会動画配信も計画されている。詳細は下記のQRコードからも情報を入手できるので参考にしてください。

SAGA 2024 国スポ 全国大会

②-1 SAGA2024競技会動画配信(ライブ配信)の概要

国民スポーツ大会

配信先：日本スポーツ協会が運営する国スポチャンネル
 対象：正式競技
 内容：約600配信規模にて調整中
 ※鹿児島国体では決勝戦を中心に約230配信

国スポチャンネルは、日本スポーツ協会が運営する、国民スポーツ大会の競技会動画を配信するチャンネルです。

全国障害者スポーツ大会

配信先：SAGA2024国スポ・全障スポYouTubeチャンネル
 対象：正式競技
 内容：約140配信規模にて調整中

SAGA2024国スポ・全障スポ
 @SAGA2024・チャンネル登録者数 5156人
 SAGA2024「さびにーまるにーるん」実行委員会事務局
 が運営する公式チャンネルです。

競技はI Fルール準拠！

一方、競技ルールもチーム競技ながら個人競技であるI Fルールに準拠した競技方法での競技会となる。

リード競技予選では、「一人2ルートを登る」ことにより、「リード競技施設は、4ルート」となった。

本大会は「4種別各25チーム」 ジェンダー平等を実現！

来年開催される、「わたSHIGA輝く国スポ」における監督資格は、「J S P O公認指導者スポーツクライミング指導者」資格のみ、となります。ご注意ください。

J S P O「第5期国スポ実施競技選定」調査

スポーツと、望む未来へ。
 ～スポーツの力で、人も社会も元気になる仕組みを“ともに”つくる～

国スポの活性化

「国スポムーブメントの推進」を積極的に展開し、国スポが「地域の活性化」、「スポーツ文化の浸透」、「アスリートの発掘・育成・強化」に寄与することを目指す。
※参照：『21世紀の国体後～国体ムーブメントの推進～』（平成25年3月13日策定）

第5期実施競技選定

＜第5期実施競技選定の評価項目（大項目）＞

- ① 国スポ及び競技会の活性化（競技会のインテグリティ確保を含む）
- ② ジュニア世代（18歳以下）の充実
- ③ 女性スポーツの推進
- ④ スポーツ医・科学サポートの充実
- ⑤ 国スポ及び競技会の開催・運営能力
- ⑥ 社会課題解決に向けた取り組み

具体的な評価方法と配点(合計1,000点)は、

- ①国スポ競技の活性化(競技会のインテグリティ確保を含む)(200点)
 - ②ジュニア世代の(18歳以下)の充実(160点)
 - ③女性スポーツの推進(240点)
 - ④スポーツ医・科学サポートの充実(112点)
 - ⑤国スポ及び競技会の開催・運営能力(160点)
 - ⑥社会課題解決に向けた取り組み(サステナビリティ)(128点)
- となっている。

弊委員会は、過去4回の「実施競技選定調査」のたびに、「国民スポーツ大会」を名目とした「競技団体運営／活動評価」であることを説いてきた。

今まさに、競技団体としてその評価が問われる正念場に来ている。

最後になりましたが、国民スポーツ大会が開催できるのは、47都道府県の仲間の皆さまのご支援とご理解そして何よりも、47年に一度回ってくる本大会を主管される、山岳／スポーツクライミング連盟(協会)の皆様のご尽力以外にはほかありません。国スポ委員会として、心より感謝申し上げます。

本来であれば、中央競技団体が積極的に皆さまへの下支えをする役割にあると思いますが、まだまだ中央競技団体としてその域に達していないのが現実です。

今年中には、J S P O「国スポ第5期実施競技選定」が実施されます。その**最初の設問が、「国民スポーツ大会に参加されますか」**です。今、その判断がJ M S C Aに求められています。

(スポーツクライミング部国スポ委員長 西原斗司男)

2025インターハイ 登山競技を (みんな)



《募集期間》
2024年9月までに
お願いします！
最終メ切
2025年3月末

←2025インターハイ
高校生考案キャラクター
“ひろしばけん（登山）”

“ふるさと納税”で支えよう！

大会運営費の一部
(目標：2,000万円)

選手が安全・安心に
競技できる環境を整備します！

集まったふるさと納税

参考：ふるさと
納税について

個人実質負担
2,000円

※上限額の範囲内で
寄付した場合



【総務省HP】

登山競技を応援いただく皆様
(寄付者)

《活用イメージ》

- ✓ 登山道や幕営地の整備
- ✓ 仮設施設設置や備品等のレンタル
- ✓ 安全対策会議の開催や登山医の派遣等

登山愛好家
の増加！

高校生登山活動
の活性化！

登山競技

- ▶ 日程：2025年8月5日～8日
- ▶ 会場：広島県安芸太田町
(恐羅漢山、十方山、深入山〔背景写真〕)

ふるさと納税は、広島県が募集しています。県内開催
8種目のうち、「登山」指定で御寄付ください！

寄付お申込はコチラ▼



【広島県教委HP】

● 12月28日～12月30日 前穂北壁Aフェース登攀～前穂高～吊尾根～奥穂～北穂

28日はヘッドライトで4峰を登り、3, 4の科尔へ。そこで先行パーティの2人にラッセルのお礼を言う。彼らはこのまま前穂の北尾根を登って行くそうだ。2人のテンバ跡地に荷物を置かせてもらい、C沢を下降して北壁に向かう。ロープ出してB沢ヘトラバース、登り返して北壁の基部へ。北壁は北尾根と前穂東壁に守られた場所で無風だった。これは幸い。

正味4ピッチなので下半分を私、上半分を保坂がリードすることに。登っていくと、壁は雪と氷に覆われておりプロテクションが取りづらい。シーズン初めには厳しい&こわいクライミングだった。岩が目視できて「次はあそこでコレが決まる」と予測して登ると、何が取れるか分からないで登るとでは全然ちがう。北壁はべったりと氷で覆われていた。ここでもスクリュウ使えたじゃん。3, 4の科尔に置いてきた私たちバカ！

氷をかち割ってクラックを掘り出したり、雪を払いのけて岩を露出させたりしながらジリジリ登っていく。続く2ピッチ目も難しくはないがずっと氷と氷に乗った雪。ここでもスクリュウがあった方が良かった!!仕方なくあんまり効いてないイボイノシシ1本を中間にとって30mのぼし、3ピッチ目の凹角下まで。

1, 2ピッチを終えて、保坂が「今日のMVPはおハルだ～」と言って上がって来た。2人とも、もうこの上は今ほど難しくないだろうと思っていた。が、実際は予想を裏切られまだまだ恐怖のクライミングは続いた。フォローで登っていても3ピッチ目の薄いベルグラチムニーからのトラバースは声が出ちゃったし、5ピッチ目(4ピッチ目は雪壁歩き)はこれ絶対私リード出来ないわ、たぶん一生、っていう感じの傾斜のあるフェースだった。

こういう悪いところで保坂は異常に強い…。数年前に2人で行った明神5峰の中央リンネを思い出した。続く6ピッチ目で私が最後の雪壁を登って前穂の山頂に立った。強風だった。もうすぐ日が沈む。北尾根を先行した2人が明神主稜を下っており、こちらに大きく手を振っている。前穂の北尾根も結構時間かかったんだな。でも北尾根はずっとこの風に晒されていたのだから厳しかっただろうな。彼らも前穂から奥穂に向かうと言っていたが、明神へ下っている。何か計画変更があったようだな。そんなことを思いながら手を動かし、2本のアックスを支点に保坂を確保し、2人で山頂に立った。

この後はヘッドライトをつけて、足早に前穂の1, 2, 3峰を懸垂やクライムダウンを交えて下った。暗いのは良いとして、風がめちゃくちゃに強い。明日もここを登るので所々

カムなどを残置しつつ、下降した。想像以上の1日だった。

山行開始6日目の12月29日はこの山行で初めて明るくなってからの出発。いつも暗いうちに出発していたが、準備の時に明るいと嬉しい。昨夜残置したギアを回収しつつ2度目の前穂山頂を踏み、奥穂へ続く吊尾根へ。

前穂から奥穂なんて夏は2時間くらいなのだが、冬期はまったく別物だった。雪面がカチカチで、本当に固い。氷みたい。アイゼンの前爪は新品で来たが、他の爪を研いで来なかった自分を呪った。これは本当に最悪の整備不足だった。足のエッジを効かせてトラバースする姿勢だとたまにアイゼンが滑って怖いので、雪面に前爪を向けて登る姿勢が多くなる。吊尾根は基本ずっと凍った雪面のトラバースで、後から思い返しても穂高の稜線の中で1番雪面が固かった。新品のアイゼンで来ていた保坂を結構待たせた。ふくらはぎがめちゃくちゃパンプしている。

この日はデポ荷のある穂高岳山荘を目指していたが、15時頃に南稜の頭手前の科尔。私は穂高岳山荘に辿り着くことしか考えていなかったが、保坂が今日はこの辺で良いんじゃないか？と言ってくれる。ただ歩くだけなら頑張るのみだけど、一瞬でもいい加減に足を置いたら死ぬから、神経使って今日私はこんなに疲れている。集中力を切らしたら終わりの場所にいるのは自分が1番よく分かっているの、情けないし申し訳ないけど、そう言ってくれるならここにしようと言った。

その日の夜は落ち込んだ。保坂はチームだから良いんだよ、と言ってくれた。14日間の行程を通して疲れたり怖かったり寒かったりすることで気持ちが折れることは無かったけど、自分が情けないのが1番気持ちが辛いことなんだと知った。

30日は風は強いが晴れ。南稜の科尔から奥穂の山頂までは1時間ほどで登れた。ここに来ると今までの静けさが嘘のように何パーティかの登山者に会おう。気づけばもう年末年始の休みか。奥穂の山頂へは涸沢岳西尾根から2泊3日で来られる。穂高岳山荘には午前中に着いたので、デポ荷物を回収して、お湯を沸かして飲み、パッキングして北穂小屋へ向かう。

穂高岳山荘にて各自5キロくらいの荷物が増え、涸沢岳を越えて北穂に向かう。涸沢岳から懸垂5回くらいで科尔、そこから北穂の登りもコンテで進んだ。やはり北穂までの縦走路も一筋縄では行かなかったが、この夏に歩いているのもあるのか、吊尾根よりマシに感じる。日没間際に北穂冬期小屋に到着した。

北穂の山頂付近には松濤岩という大岩がある。私と保坂は8年前にこの松濤岩で寒い夜を明かした。上高地から入って滝谷を登りに来たのだった。その滝谷山行から下山した日に付き合うことになった私たちが、本当にそれ以来の2人での北穂だ。ずっしり重くなったザックを背負いながら、夕闇迫る中で松濤岩を通過し、なんとなく感傷的

吊尾根から見る奥穂



北壁



な気分になった。

昨日の遅れを今日穂高岳山荘をパスして北穂山荘まで来たことで、取り戻すことかできた。あの頃と比べて、自分は山屋として強くなったと思えて嬉しかった。嬉しい理

2024 JMSCA自然保護委員総会 報告

6月20日19時30分より、理事、常任委員、専門委員14名が参加して、2024年度自然保護委員総会がzoomによるオンラインで開催された。

まず、主催者を代表し前田主幹理事より「赤字問題を機に会長や一部理事が辞任する。6月23日の総会を経て蛭田新会長を中心にJMSCAの新体制が発足予定。理事は減員となり、事務局の入れ替わりも多く業務は混乱しているが、来年6月総会の任期までこの体制で乗り切っていく。委員会の協力もお願いしたい」旨の挨拶があった。

続いて委員長より24年度の活動方針として「今年度も山岳自然を美しく保ち、後世に伝えるために山岳自然保護・保全活動を推進するとの基本方針を踏襲する。中でも、自然保護指導員制度の普及推進を図り、指導員活動の促進のために『自然保護指導員規程・同細則』の改正を年度内に成立させること、および『指導員の手引き』の改訂作業を進め、全国の指導員研修の共通ツールとすることを今年度の最重要課題とし、併せてJMSCAフレンドの実用化を見据え、各種手続きのデジタル化に向け情報整備を進める」ことが示された。

更に23年度事業報告および24年度事業計画、23年度決算報告および24年度予算が資料に沿って説明され、特に今年度予算につき「JMSCAの赤字により各種予算が縮小されるが、少ない予算で最大限の効果があがるよう工夫していく。ご協力を！」との依頼があった。

続いて今年度の自然保護委員会の体制につき、猪狩常任と阿部専門委員の交代、新専門委員として(一社)千葉県山岳・SC協会渡邊悦郎氏の参加があり、7月の常務理事会での常任委員の承認後は16名の体制で委員会の活動を担っていくことが報告された。

最後の質疑応答では活動方針の一つに挙げた「地球温暖化(気候変動)による山岳自然の現況を把握し、他団体と連携した環境保護・保全活動を推進」は、検証困難な大きすぎる目標ではないかとの問いに対し、山を歩いていて実感できる生態系の変化を共有しようというもの、研究者のように変化を数値化しようとするものではなく、山屋の肌感覚を活かしていきたいとの回答があった。

以上の報告、提案は、満場一致で了承された。

(自然保護委員長 小高令子)

JMSCA自然保護委員会フィールド研修会 報告

昨年に引き続き、富士箱根伊豆国立公園の特別地域三ツ峠山にて、三ツ峠山荘オーナー中村光吉氏にご協力を頂き、フィールド研修会を開催した。

6月15日9時、三ツ峠登山口に集結したJMSCA関係者および埼玉、神奈川、東京の各岳連・協会の自然保護指

導員ら17名は三ツ峠山荘に向け出発。心配された天候も良い方に外れ、山荘のテラスでは富士山が長く裾を引く秀麗な姿で我々を迎えてくれた。午前中は三ツ峠の峰々を巡り自主研修。昨年沢山見られたカモメランが激減しており、群生地に補強された柵が昨今の異常気象による生育環境の悪化と深刻なシカ害を物語っていた。

13時より中村オーナーからの本日の研修会についてのブリーフィングを受け、まずは、希少植物の観察会。登山道脇に設置された防鹿柵の鍵を開け、アツモリソウの保護地に分け入る。山頂周辺の登山道の殆どは、しっかり施錠された防鹿柵が取り巻いている。かつては三ツ峠の峰々を彩っていた多種多様な高山植物や緑の絨毯を形作っていた下草の多くは姿を消している。深刻なシカ害や残念ながら未だに盗掘も確認されており、また近年では花の撮影を目的とする人の踏み荒らしや踏み固めによる自生地の縮小も危惧されているという。これらへの防衛策は、残念ながらこの柵に頼らざるを得ないのが現状、とはいえ複雑な思いは禁じ得ない。

お目当てのアツモリソウはシカ柵の中の更に頑丈な鉄柵の中で見事な花をつけていた。非常に珍しいキバナアツモリソウも見せて頂いた。しかしながら、どの株も昨年より小ぶり、開花した花も少なめ。今年の猛暑、暖冬さらに追い打ちをかけるように続いている今年春以降の異常気象の影響が出ているという。

シカ柵を出て、ムヨウランなど登山道脇に僅かに残る稀少植物を確認する度に歓声が揚がる観察会を終え、次のメニューは貴重な植物の生育環境を維持するためのテンニンソウの除去。日本各地に自生する野草で暑さ、寒さに耐える丈夫な植物だけに繁殖力も旺盛、駆逐への終わりが見えない作業ではあるが、参加者全員で汗を流し予定の区画の除草を終えた。

翌日、やはり観察会と除草作業のために入山した山梨岳連、日本山岳会本部および山梨支部の自然保護委員会メンバーと意見交換会。各団体がそれぞれのアプローチで山岳自然を美しく保ち、後世に伝えるために山岳環境の保護・保全活動を推進していることを確認し合い、意を強くした。

前夜からの雨もお昼過ぎには止み、貴重な高山植物との出会いやほんの僅かだが除草作業への協力で、参加者全員とても気持ちよく山を下りた。中村氏、三ツ峠山荘スタッフに改めて感謝申し上げます。

(自然保護委員長 小高令子)

テンニンソウ除草作業



鉄柵で護られたアツモリソウ



福井県山岳連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

いよいよ本格的な夏山シーズンが到来、コロナ禍の様々な規制が緩和された今、各地の山は登山者や観光客で賑わっている。その一方で、登山道の荒廃や山小屋の経営悪化など、解決すべき問題がまだまだ横たわっている。では、このような問題を解決するためには、どうすればよいのだろうか？

先日、福井県唯一の百名山である荒島岳の地元大野市に本拠地を置き、登山道の整備や桜の植樹、山頂の方位盤と標柱の設置など、さまざまな事業を手がけている『荒島愛山会』の会長とお会いする機会があった。

その際、W会長から『「サステナブルな活動」など言葉自体が目立っているが、登山に関わる人にとっては元来取り組んできたことであり目新しい活動ではない。しかしながら、例えば普段登山者が気持ちよく歩いている「登山道」は、誰がどのように整備してくれているのか？整備しないとどんなことになってしまうのか？について、一般の登山者はほとんど関心を持たない』等々、登山道の維持管理に係る様々な矛盾についてのお話を伺った。

ここで、最近よく目にするサステナブルとは、どのような意味を持つ言葉なのか見てみよう！サステナブル(Sustainable)とは、sustain(持続する)とable(～できる)からなる言葉で、「持続可能な」「ずっと続けていける」という意味がある。

山社会においても高齢化が進む中、各山岳会は存続の危機に瀕している現状が問題視されて久しい。

そこで、短パンにローカットスニーカーといった、一

昔前なら「山を舐めるな」「危ない」と言われたようなスタイルの若い登山者(20代～40代)がここ数年で増えている事に目をむけたい。若い登山者が増えた今こそ！持続可能な開発目標『SDGs登山』が重視される時代ではないか？

福井県山岳連盟各加盟団体においても、各地の山開きの準備作業を皮切りに、定期的な登山道整備、山小屋清掃など様々な活動に取り組んでいるが、今後の活動には、短パン&スニーカー履きの、みなぎるパワーも是非呼び込みたいものである。山をこよなく愛する者同士、「サステナブル(Sustainable)な登山」を共通の目標として取り組んで行きたい。

ひとりひとりの登山者が気持ちよく山に登るために、ゴミを落とさない！登山道から外れないで歩く！といった小さな事から行動を起こす事も大切だ。『大切なものを守りたい！』その気持ちこそが登山者の行動を変え『SDGs登山』の始まりだと信じて……。2030年目標達成に向け一歩ずつ…

若い世代への情報発信と世代を越えた繋がりこそが、山文化のSDGsに繋がるのではと思う。

岳連で実施した『SDGs』を考える登山時に作成したチラシを添付します。

(福井県山岳連盟 自然保護委員長 勝木和美)

登山のSDGsを考えよう！



○健康増進・維持のために、自分に合った登山をしよう！無理をしないで、自分に合った登山スタイルで登りましょう！



○自然を学ぼう！花の名前や、地形、地質や歴史など、その山に関することを学びましょう！



○山に残していくのは足跡だけ！
ゴミはもちろんのこと、携帯トイレを使用しましょう！
○山野草や高山植物などを採らないようにしましょう！
撮るのは写真だけにしましょう！



○プラスチックごみを減らそう！
マイ箸、マイスプーン、マイボトルなどを使いましょう！
○ゴミは持ち帰りましょう！プラスチックごみの誤投は、海洋生物だけでなく、陸上生物もあります



○公共交通機関を利用しましょう！
○自家用車利用の場合は、乗り合わせて行きましょう！

これからも楽しい登山をみんなでするために！



荒島岳／登山道を塞ぐスギの倒木除去作業



荒島岳／登山道の草刈り作業

JMSCA 令和6年度定時総会報告

- 日時：令和6年6月23日(日)
10:00～17:20
○場所：JSOSビル3階第一会議室と
Webのハイブリッド会議

1. 開会

会議成立状況(定款第18条)正会員数72名、定足数過半数37名以上。開会時、正会員＝68名出席(対面出席30名、オンライン30名、委任状8名)上記にて会議は成立した。なお、オンライン会議システムが正常に動作し即時に意見交換ができることを確認した。

2. 出席者

※印は対面、他はオンライン
蛭田伸一会長*、古賀英年*、吉田春彦*の各副会長。小野寺齊専務理事*、町田幸男

、野村善弥、赤尾浩一*の各常務理事、以上7名。望月啓治*、濱田豪*、栗田季慎子*、小高令子*、前田善彦*、小田部拓*、佐藤建*、島田邦昭*、中島隆之*、中橋沙羅、西谷善子、畑中渉、樋口義朗、丸誠一郎、山口純子の各理事、以上15名。古屋寿隆*、佐久間務*の各監事、以上2名。石井昭彦(北海道)、服部一雄(青森)、吉田春彦(岩手)(役員)*、山田定道(宮城)、齊藤喜代志(秋田)、大滝潤二(山形)、平

子吉政(福島)、西内博(茨城)、糸川章(栃木)*、吉田直人(群馬)、加藤富之(埼玉)*、廣川健太郎(東京)*、水島彰治(神奈川)*、稲田春男(新潟)、小宮山稔(山梨)*、杉田浩康(長野)、中西紀夫(富山)、山本利幸(福井)、木ノ内高嘉(静岡)、伊藤智彦(愛知)、加藤正之(三重)*、小木曾昭文(岐阜)、澤山恵(滋賀)、湯浅誠二(京都)*、小畑和人(大阪)*、古賀英年(兵庫)(役員)*、藤本直民(奈良)*、小坂秀己(鳥取)、松本実(島根)、石原敬士(岡山)、山田雅昭(広島)*、古林喜明(山口)、木村康男(香川)、原秀樹(徳島)、峯本典寛(愛媛)、刈谷範光(高知)、宮原敏明(佐賀)*、古川好幸(長崎)、西本安幸(熊本)、原勇人(大分)*、新原佑治(宮崎)、川添秀男(鹿児島)、細川浩(沖縄)、松尾浩志(高体連)、以上42名。

委任 目次俊雄(千葉)、新耕一(石川)、山口進(和歌山)、寺崎良夫(福岡)、安井博志、杉本怜、飛松好子、平田信也理事、以上8名。

3. 同席者

顧問：田中文男*、本木總子*、神崎忠男*、顧問弁護士：萩原崇宏*、委員長：百瀬恭平*、服巻辰則、西原斗司男、青山千影、竹田遼、事務局員：星野照男*、徳屋説得*。

4. 議長選出

定款第16条にさだめるところにより、蛭田会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を前述1のように確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として、前田善彦理事、糸川章正会員(栃木)について決議し、承認された。

5. 議案

蛭田会長が新体制について次の説明をした。今回、6名の理事が辞任したが、理事会としては、増員せずに対応していきたい。新体制では、常務理事は、蛭田会長、古賀筆頭副会長、吉田副会長、小野寺専務理事、赤尾事務局長、町田SC部長、野村登山部長の7名となる。現行の体制を盤石にし、JOC/JSC/JSPPOに対しても、安定した体制を示すねらいで、理事会として、名誉会長を田中顧問にお願いすることになった。

前回、理事の信を問うということを、今総会で、発表することになっていて、その方法を、理事会内で検討したが、一人一人採決する方法を取るならば、全員で一度辞任して、新たに役員候補を全国から出さなければならぬ状況で、改めて理事会で審議した結果、信を問うということを、撤回するという決議となった。

意見：新体制は、事業規模が大きいSCの実経験の長い方がいない、また、ガバナンスを強化する人が常務理事会に入っていないようだが大丈夫か。

その後、以下の審議にはいった。

議案第1号 令和5年度事業報告について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。**質問**：登山道について、JMSCAの取り組みはどうか。

回答：遭難対策を含め、超党派議員と山岳4団体との集まりに出席している。JMSCAとしての対応等は未定だが、山岳4団体と

の協議の結果によって対応していきたい。**質問**：賛助会員減への対応についてどう取り組むか。

回答：参与として理事会で採決が可能だが、理事に参与になっていただく方法も検討し、令和8年度3月まで(内閣府への提出)には増やしたい。

質問：登山道について山岳統括団体としてJMSCAが前面に出ないとならないのではないか(環境庁を含む行政との関係から)。

回答：声はかかっている、打ち合わせに参加しているが、理事会におおすレベルになっていない。今後、協議が進んだら対応していきたい。

意見：アクセス問題は、山梨県が熱心で、複数岳連の関係者にも声がかかり、山の日協議会で取り組む中でも問題となっている。次のようなモデルごとに県を選んで対応策を検討してはどうかという提案をしている。

1. 小屋が整備されていて山岳とビジネスが連携している長野、山梨
2. 山小屋はないが、登山道整備に力を入れている北海道、三重
3. 駐車場、トイレの問題がある都市近郊型の東京や兵庫

質問：事業報告で赤字になった原因、責任追及と言及しているが、これだけでは、会員へ説明できない。一つの競技会での、発注、見積もり等の経緯を示してほしい。

質問：予算規模を超えた事業を実施してしまうことをどうして許すのか。その結果、去年、9500万円の赤字となっている。

回答：決算結果については、2022年度以前を含め、改めてお詫びしたい。

質問：賛助会員の条件はなにが必要か。

回答：日本の登山界に貢献した方、各岳連で会長、副会長になった方が今まで推薦されている。今貢献している方も含めて考えていきたい。

質問：登山月報が100部きている、傘下の各会に半分布、月報をデジタル化できないか。また、月報の内容について、競技系が先頭に来ている。山のことがなぜ先こないのか。

回答：登山について、海外登山も積極的に動くようになってきている。資金は十分ではないが、若い人が育ちつつある。登山月報の配布方法については、別途まとめて対応を検討予定。

質問：資料P6の(7)財政再建計画作成骨子案で、目標として年間2000万円の余剰を生み出すとのことだったが、現時点で変更はないのか。基金との関係もあり、会員に説明するためにも詳細数値をだしていただきたい。

回答：報告第1号議案で令和6年の収支予算の部分で言及することにしたい。

質問：財務委員会は、組織上、総務部の中にはいるが、財政再建委員会を今後どうつくっていくのか、

意見：課題と対策について。予算を管理する体制が脆弱とあるが、運用の細則や、書式などが整備されていない、機能しなかった。専務理事の負荷が重すぎる。規程や運用を目に見えるようにするなどの見直しが必要ではないか。ガバナンス、規程違反については、しっかり対応し、けじめ

をつけなくてはならないのではないかな。また、今後の公益法人法の改正により、特定資産や、災害に備えた積立など、変更を検討されてはどうか。

議案第2号 令和5年収支決算の承認について
赤尾事務局長が、配布資料を基に以下の説明をした。

貸借対照表：流動資産(短期借入金増)。固定資産の財政基盤確保資金600万円を取り崩した。ソフトウェアJMSCAフレンドの機能拡張により+510万円、結果的に、正味財産合計は、2034万円となり、債務超過は免れた。

正味財産増減計算書：主な収益項目と、事業支出項目を説明し、結果的に3796万円の赤字となった。さらに、当赤字が発生した背景、要因について、画面に補足説明資料を表示し、説明した。

1. 要因(1)

補正予算時(11月)には、約3500万円の赤字を予想。ももとの当初の見積もりが甘い数字だったので、本来の数値に計算しなおして、予算値を精査した結果、当初支出予算から、以下の支出削減を行った。

- ・登山部：1000万円削減
- ・SC部：6600万円削減(SC競技は4500万円増)
- ・全体：7300万円削減

SC競技委員会は、当初年間予算：1億4500万円としたが、過去2年の8大会競技の年間支出結果は、1億5000万円で、八王子BWC追加でおこなった結果、本来年間1億9000万円が必要だった。

4-5月の4つの大会では、従来のやり方で、大会運営方法や業者変更等はできず、実施後1億2000万を支出することになった。残りの大会をやめたらスポンサーへの返額、実施したら費用発生という難しい状況になった。

9月以降、SC競技委員会で運営方法などを変更し、支出実績は、補正支出予算以下で執行できるようになり、剰余金を出せるようになった。しかし、通年で見ると当初の赤字を覆すほどではなかった(赤字を取り戻せるほどではなかった)。

2. その後の要因(2)

補正予算時に比べ、300万円の支出増(ソフトウェアの減価償却)が発生。全体的に、補正予算時より、収入、支出とも、約3000万円増で終了した。

令和6年度SC競技委員会の予算設定と、予算執行管理はしっかりできている。今後は、このプロセスと実績をどう定着させるかがポイントとなる。

質問：4500万円の赤字は、どこからでてきたのか。

回答：4500万円は、実際実施した結果を基に補正予算を作成した。2021、2022年は補正予算をかけていない。4月、5月で実施した大会の支出費用が、1億2000万円の支出になってしまった。その後、補正予算を策定した。

要望：今回の説明補足資料を、後日配布してほしい。

回答：了解しました。

要望：2021、2022年度に合わせて予算化し、1億2000万円使い切ってしまったとのことだがおかしいのではないかな。人が変わったらできるというのは今まで何をやってきたのか。総会(ここ)に集まれる

ような資金(交通費、昼食代)くらいは確保してほしい。

回答: 総会へご足労いただいたら交通費+弁当を出せるようにしたいという気持ちはあるが、お出しできない状況でした。申し訳ございません。

質問: 4、5月の支出1億2000万円の内訳が分からない。各会員へどう説明したらよいのか(何にどれだけ、どう使用したのか)。

質問: 見積もりが甘かったとのことだが、赤字検証委員会での調査ではどういう理由で赤字が発生したという説明だったのか。

回答: 海外の出張全面凍結、会議費について、昨年の定期総会以降は旅費減、SC強化委員会は、努力して減らしているが、JOCに対して一部返額。SC競技委員会は、競技会が終了したら1か月以内に収支報告、もし、赤字なら、その後の事業を見直しする。今期は、4-5月に令和6年度支出予算から4-500万円削減している。今まで、やるべきことをやってなかった。

質問: SCの強化事業取りやめや、事業停止による影響はなかったのか。

回答: 登山関係では、IFとの関係構築が必要だったが、お金がないので海外出張をやめた。

回答: SC強化事業は、今年度は、選手負担はかなり増えた。スタッフは削れないが、謝金は減らしている。JOC補助金では、JMSCAは1/3を負担、2/3はJOCが負担となっていて、その状況は、スキーモ委員会とも共有されている。

質問: 各委員会の宿泊滞在費の見直しはされたのか。

回答: 登山の場合、指導委員会は安い宿泊場所で実施。総会や会議もオンライン中心としているので、経費はかからないにした。SC強化事業は、事業費の1/3のJMSC負担金が払えないため事業を中止して補助金を返額した事業も一部ある。ワールドゲームズは行っていなかったの、経費削減に貢献した。その後、佐久間監事が、配布資料をもとに監査報告を行った。

質問: 昨年執行部への指摘事項があったと思うが、何が課題として残ったか。

回答: 組織の構造上の問題(組織を維持管理するための規程の見直し、会議の在り方、予算の管理の方法)には課題が残っていたが、6月以降は組織の問題は改善傾向にある。しかし、これに甘んじることなく管理強化をしてほしい。予算制約の中で、予実管理をしっかり強化してほしい。第1、第2議案について採決を取り以下のように承認された。

賛成66名(会場30名、オンライン28名、委任8名)となり、過半数を超えたので承認された。

田中名誉会長からの挨拶

加盟団体に必要とされる日山協(JMSCA)になるために、尽力できたと思う。日山協やそこに所属している会員の皆様、登山者にとって、何ができるかというより、皆さんからこうしてほしい、サポートしてほしいということがあれば、声をかけてください。皆さんと一緒に歩ませていただきたい。

議案第3号 前回臨時総会以降の動きについて 善管注意義務違反者処置について

蛭田会長が、6名の方と協議の結果、議案

記載のとおりの場合が成立する目途が立ったので、総会においてこの合意の承認をお願いしたいと説明した。ただ、「善管注意義務違反を認める趣旨ではない」ということと、金額や支払い方法は異なるものの、全員がいくらかの解決金の支払い義務を負うというのが、合意条項の内容になる。理事会としては、善管注意義務違反を明確にせず、解決金の支払いで本件を解決することが最善であろうという判断に至った。

その理由は、

①解決までの時間、②解決までにかかる費用、③解決にかかる作業の負担、④社会的影響の4つがあること。また、6名の方と合意した場合、480万円(解決金)+310万円(基金拠出返還請求権放棄済み)で合計790万円、さらに、その他の理事による基金拠出額540万円で合計1330万円となり、報告書上の損害額として設定された合計額1080万円を超える。裁判を行い解決までの時間や費用をかけるより、裁判を行わず、合意が見込める金額を回収したほうが、合理的ではないかという結論に至ったので、これらの議案を提案することになった。また、萩原弁護士から、配布済資料を基に、前回マスキングした部分を含め補足説明した。

その後、以下の質疑応答があった、

質問: 否決された場合にはどうなるのか。

回答: 特別決議が必要になるが、法律上の要件を満たさないで、その合意は提示できない、解決としての合意締結もできない。何も決まっていない状態なので、理事会でどうするか判断が必要になる。

質問: O氏の場合には全会一致の同意が必要とあるが、出席者全員なのか、正会員全員か。

回答: 議決権がある正会員全員の合意が必要だが、総会でなくてもよい。

質問: SC競技委員会以外に、スキーモや、他の委員会も赤字をだしているが、そちらの分も対象にしないとけじめがつかないのではないか。過去3年で、赤字を出した責任という観点から処分の検討をお願いしたい。

質問: 他の理事を含め、ガバナンス委員会検討等できないか。これで責任がなくなってしまうのか。理事会全員の責任ではないのか。この件について早く決着つけて前を向きたいと思う。基金の拠出額が責任をどう感じているかの指標とも見れる。再発防止のために、訓戒、訓告などの処分をし、けじめをつけたらどうか。

回答: 基金拠出実績については、出せる情報は出した。人によって事情は異なるので、個人ごとの金額を出すのは不要とした。

質問: 基金を出していない人は、責任を感じていないのではないか。

回答: 2022年度の役員のうち10名が基金を出していないが、ほとんどの方が、第二期基金に協力するとの返答をいただいている。

質問: 予算執行管理にかかわる規律では、委員長、主管・担当理事、専務理事がすべての責任となっているが、このままでよいのか不明。旅費規程で、予算の範囲内で執行とあるが、それができなかったことが赤字の原因となっている。倫理規定、処分規程

等を適用することを検討していただきたい。再発防止のための処分の分類、定義も現状に合わせたほうが良いのではないか。

質問: 合意内容とは別に、規程を守らなかったことに対するけじめをつけてほしい。訓戒、訓告などは考えないのか。

回答: 裁定委員会では、6人が、訓告、訓戒より重い処分となっている。

回答: 少なくとも6人は、明らかに善管注意義務違反と認定している。通常、理事会の職務の一つは、理事の職務の執行を監督することであるので、理事は他の理事の業務執行を監視、監督する義務がある。実際は、登山関係の理事が、SC部の運営について、同じ責任を負担するということはない。規程等、不十分な部分はあり規程の見直しも必要と思う。

質問: この合意書では、善管注意義務としては認めないということか。

回答: 善管注意義務違反は認めず解決金ということで妥協するということ。

質問: 6名の方は、理事としての責任を感じ、反省しているのか。

回答: 人によって表明の仕方は濃淡がある。

質問: 倫理規程で処分して、けじめをつけたほうが良いのではないか。岳連の方でも、処分し、民事訴訟を起こしたケースもある。統括団体として、しっかり対応してほしい。

回答: ハラスメントや、倫理上の問題等が発生したら、都度対応している。今回は、3月末で結論を出さなければならなかった。解決金についても、交渉した結果、やっと15万円となった。今回はその結果と理解してほしい。

質問: 各自はどう考えているのか、

回答: 認めた場合には、お金を払わなければならないので、そのまま認めていない。

質問: 付帯決議を付けることは可能か。

回答: 事前の提案があるわけではないので、付帯決議として総会としての決議はできない。意見を集約しまとめるのはよい。

質問: 2022年度の理事会に対する責任の問題はどうなのか。今後について、何も処分せず進めるのがよいのかという疑問がある。6人だけでなく他の理事も処分した方がよいのではないか。会長として、その先頭に立っていただき、進めていただきたい。また、実行期限を決めてほしい。赤字検証委員会で調査されたものをベースに対応を考えればよいのではないか。

回答: 理事会で検討し、できるだけ早く回答する。その後採決し、以下のような結果となり、全議案が可決した。

3-1号 Mu氏 会場 オンライン 委任状 賛成67名(31名+28名+8名)特別決議2/3以上

3-2号 Y氏 賛成64名(27名+29名+8名)特別決議2/3以上

3-3号 M氏 賛成67名(31名+28名+8名)特別決議2/3以上

3-4号 K氏 賛成62名(25名+29名+8名)特別決議2/3以上

3-5号 Ma氏 賛成66名(29名+29名+8名)特別決議2/3以上

3-6号 O氏

賛成72名(32名+32名+8名) 全正会員賛成

議案第4号 基金(第一期報告)

小野寺専務理事が、第一期の結果(2740万円)と、基金を拠出した方々の一覧表を参考資料として画面表示し、説明した。

岳連のみなさまのご協力に感謝しておりますと伝えた。また望月理事が、第二期の予定を説明した。5000万円に達するように、理事会で詳細が決まり次第お願いしたい。今回、4月になって払い込まれた分については正確な数字を基に対応したい。

8. 報告

報告第1号 令和6年度事業計画と収支予算について

事業計画を小野寺専務理事が、収支予算を赤尾事務局長が、配布資料を基に説明した。収支予算については、4月から5月で補助金額が確定したので、8月理事会で補正予算を確定目標と補足した。

質問:科目ごとの入り繰りがあるようだ。旅費交通費が5400万円減、諸謝金が1600万円増、現地サポート費用が3200万円増になっている。

回答:費目について、現地サポート費用は、当初雑費と計上されたいたが、金額が大きいの、単独科目として計上している。

回答:4億4000万円に支出をしようとしている。上期競技で、予算を超えたら、下期は、事業見送りの予定でいた。上期は予定通りならば、下期も継続が可能。支払い費用のうち令和5年の業務委託費として入れていたが、事業費に移動している。

質問:収支改善のために、どこの委員会に力をいれているか。

回答:予算上は、競技に割り振っている。強化は、支出を絞っている。

要望:事業計画で、財政再建について長い年月がかかるとあるが、早急に取り組みとしてほしい。また、補正予算も早く策定してほしい。

質問:委員会毎(競技、強化、普及等)の収支予算の詳細が欲しい。また、補助金の割合はどのくらいか。

回答:選手強化は、ユース、オリンピック予選10割負担、日本代表7割負担あり、競技はほとんどない。

回答:競技は、選手登録、参加費等、及び協賛費用が財源となる。

要望:費用明細を出してほしい。

回答:8月以降に再度、補正予算を提出し、より精度が高い予算を提示できるようにしたい。

質問:委員会毎の使用割合を提示してほしい。

回答:登山部10%、SC部70%(うち競技45%、強化35%、それ以外の技術、指導等20%)独立系8%、事務局12%

質問:予算ベースでよいので、今後進む方向を提示してほしい。

質問:増収に向けて力を入れようとしていることはなにか。

回答:山岳共済に1番力を入れているが、その他の収益増加のための機会の捻出と、方策も検討している。

報告第2号 加盟団体振興推進PTについて

古賀副会長が補足資料を基に説明した。

報告第3号 令和5年度山岳共済会事業報

告と収支決算報告について

小野寺専務理事が配布資料を基に、佐久間監事が監査報告を基に、説明した。

報告第4号 令和6年度日山協山岳共済会事業計画と収支予算について

小野寺専務理事が配布資料を基に、望月理事が画面上に補足資料を表示して説明を補足し、共済会に入るとこういうメリットがあるという部分を強調してほしい旨伝達した。

報告第5号 第59回全日本登山大会・千葉大会について

蛭田会長が、配布資料を基に説明した。(登山メーカーだけでなく38社がブースを作り、展示即売会を行った。)

報告第6号 大阪岳連からの質問について

吉田副会長が、財政再建準備委員会の状況説明を行った。今年度2000万円の余剰金確保の方法について、SC強化:1000万円、SC競技:500万円等を予定している。補正予算(8月理事会承認目途)で見直し予定。

9. その他

1. アジア山岳連盟のお知らせについて蛭田会長が説明した。

2. 登山月報の配布方法について、紙ではなく、PDFファイルでの送付が望ましいので、要望を調査した上で、その要望に合わせた送付をする。

3. 理事会、総会報告は登山月報に載せている。

4. 本日の総会資料、追加資料は、事務局から送付する。

5. 理事会の報告は、2か月遅れで初めて内容がわかるので、前もって送付してほしい。どういう方法が良いか検討したうえで、連絡する。

丸理事(前会長)から

基金の内訳:岳連、正会員:59%、新規理事:19%、現行理事:20%。債務超過の場合には、銀行借入れの停止、JOC/JSCからの概算払いの凍結が予想された。

1. 今後具体的な数値(収益)を出して、基金の返済をいくらすするという数値を出してほしい。

2. 外部理事割合、女性理事の割合が低下しているので、育てないとならない。

3. 費用削減。常勤理事の削減、日山協共済金のキックバック凍結、事務局固定費等の削減をぜひ検討してほしい。

神崎顧問から

田中文男名誉会長就任に感謝します。UAAA 30周年記念事業は、主管団体として山岳のワールドカップのつもりで取り組む予定だった。JMSCAの存在感を高めたかった。お金の影響はでていないが、JMSCAに対するイメージは、ダメージを受けているのではないかと感じる。海外からもJMSCAへの期待は高い。登山界のリーダーとして、しっかりやっていただきたい。

田中名誉会長から

どなたにとっても、日山協といえはすぐわかる協会、素人の方にもわかっていただける協会となってほしい。新しい会長が誕生したが、今までの会長が、JMSCAを支えていただいたことにお礼申し上げたい。何かあれば、いつでもお手伝いをさせていただきたい。

以上

令和6年6月23日

記録 赤尾 浩一

JMSCA

令和6年度 第5回 理事会報告

○日 時: 令和6年6月23(日)

17:30—17:55

○場 所: JSOSビル3F会議室1

○出席者: 蛭田会長、古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、町田・野村・赤尾各常務理事、望月・濱田・栗田・佐藤・前田・小高・島田・中島・小田部各理事、以上16名。佐久間監事、以上1名

○欠 席: 杉本・安井・西谷・畑中・中橋・平田・樋口、以上7名(総会時Zoom参加者は欠席)。古屋監事

1. 開 会

2. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中16名出席(Zoom参加者はなし)。監事数 2名中1名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))

3. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

4. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

5. 議 題(注. 審議順に記載)

議案第1号 定時総会で出された要望とその対応について協議した。

1. 説明時に補足資料として提示した以下の書類を事務局あて集めた後、電子データとして岳連正会員と理事宛に送付する。①赤字理由について、②共済会について、③加盟団体振興PTに係る資料

2. 3名の理事が辞任したので、メーリングリスト(理事宛)から削除する。

3. 理事の役割、充て職について。SC、登山部の両委員会に参加している理事もいる。委員会もZoomを基本としている。充て職については、対外的に誰が何をやっているかをまとめる。

4. 総会議案3-1, 2, 3, 4, 5, 6の採決に関連して、2022年度の理事の責任について、理事会に持ち帰り、どういう対応をするか決める必要がある(その旨議事録に残す)。

5. 会長が行かなければならない事業、競技会等を明確にしてほしい。西日本は、古賀副会長にお願いする方がよいかもしれない。

6. UAAA創立30周年記念式典・祝賀会の参加について。現時点では、名誉会長、会長、副会長2名、専務理事、町田SC部長、野村登山部長、望月理事、小高理事が参加予定。JMSCAは費用負担できないので、発生費用(旅費、参加費)は、基本的に各自負担。

7. 登山月報について。次回理事会の議事とする。月報発送費+時間(発行のタイムリーさ)が問題。改善案として、岳連には直接配送するのではなく、PDFにしてメール送信とし、顧問参与には、従来どおり配送する。1月に各岳連に聞いてみたうえで進めることになっていたが、その後進んでいないので、次回理事会までにアイデアを出して決める。

8. オリンピックの参加について。誰が行き、費用負担をどうするかを3役会議で検討する。

9. 理事会議事録の配布方法について
— 議事録をPDF化し正会員へ送付する案について
— 議事録の内容の開示レベルについては、月報と、HPへの掲載内容は同レベルの方向。次回の理事会で内容のレベル、方法等を決める。

以上

令和6年6月23日 記録 赤尾 浩一

JMSCA

令和6年度 第6回 理事会報告

○日 時：令和6年7月11日(木)
14:05—17:25

○場 所：JSOSビル3F会議室3

○出席者：蛭田会長、古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、町田・野村・赤尾各常務理事、小高・栗田・小田部・佐藤・島田・杉本・中島・中橋(途中離席)・西谷・畑中・濱田(途中離席)・樋口・平田・前田・望月各理事、以上22名。佐久間監事、古屋監事、以上2名

○欠 席：安井理事

○同席者：担当営業(マーケティングパートナー)

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

6月23日の定時総会をへて、最初の理事会を開くことができた。今後、理事会で決めていくことがいくつかある。また、スポンサー様からの期待も大きく、メダルを取り、JMSCAとともに、一緒に盛り上げたいという声を聞いている。自分も、スポンサーへ報告できるように、オリンピックにも参加するように判断した。また、懸案の財政の安定化と、新しい収益の確保についても、施策を進めていきたいと思っている。

3. 会議成立状況報告

理事数：開始時23名中20名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))。監事数2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注. 審議順に記載)

8月8日は、予定どおり次回理事会を設定するという事になった。

議案第1号：議事録の承認について(前回第5回の議事録について承認済)

議案第2号：マーケティングパートナーからの挨拶及び、契約について

担当営業が、会社紹介、JMSCAに対するサポート及び組織体制、来期からの契約案について説明し、質疑応答があった。
議案第3号 役員担当(登山部等)について
古賀副会長、野村登山部長が、画面上の情報に基き、以下の理事、常任委員の変更の説明をした。

1. UIAA資格委員会 中島理事が担当理事に加わった。
2. 登山普及委員会 望月理事から前田理事に主管理事が変わった。
3. 登山普及委員会 湯浅誠二氏が常任委員になった。

4. 自然保護委員会 阿部幸子氏が専門委員から常任委員になった。

5. 登山医科学委員会 中島理事が担当理事に加わった。

6. 登山医科学委員会 三浦裕氏が常任委員から専門委員になった。

その後、採決をとり、以下のように異議なく承認された。

反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名(第2号議案から栗田理事が参加している。)

議案第4号 月報のデジタル化、理事会報告について

・月報のデジタル化について

赤尾事務局長が、月報のデジタル化について素案を説明し、岳連の要望を集約(アンケートによる)したうえで、改善をできるところから進めたい旨の説明があった。その後、質疑応答をへて、アンケートの内容を一部追加変更し、実態を把握することが重要。CC(コーポレートコミュニケーション)委員会が、アンケート内容を吟味し、その後、理事会メンバーから了解をもらった上で、アンケートを実施することになった。併せて、当改善を行うことで、いくらくらい削減できるか、見積りを出す。理事会報告の伝達について赤尾事務局長が、現状の所用期間(理事会後2-3か月かかっている)と、改善後のリードタイム案(3週間くらい)を提示した。その後以下の質疑応答があった。

・現状の問題について

1. JMSCAが何をやっているのかを知りたい。現行議事録の中身をそのまま正会員に伝達してほしい(理事と同様の理解をしたい)という要求が出ている。
2. 理事会終了後2-3か月後に月報で見ている内容をもっと早く提供してほしい。という2つが要望としてある。

上記についての意見

— 議事録を正会員に送付し、質問があり、回答するのに事務局の負担が大きければ、加盟団体振興PTのメンバーから回答するという方法もある。

— 議事録を、正会員にそのまま送付するのではなく、わかりやすく編集し提出した方がよいのではないかと。

— 現在行っているまとめ(理事会議事録、理事会報告)の内容を、とにかく早く届けられるようにする(月報発行をまたず、メールにファイルを添付するなど)方法を考えたかどうか。問題は何か、1,2の両方の問題を満たすのか、2だけでよいのかの問題の整理と、対応案を整理したうえで、次回に判断をもちこすこととなった。

議案第5号 総会懸案事項(2022年度理事全体の責任問題)について

蛭田会長が、定時総会で、正会員の方から問題提示され(懲罰委員会、倫理規程、処分規程等に基づく処分など)、理事会として対応する旨返答したことを説明した。処分規程では、別表に該当しないので、対象外として判断した(監事、ガバナンス委員会も同様の判断)が、組織の問題として、再発防止のためのけじめをつける方法を検討する必要がある。今回、今後の進め方を含めた素案等特にないので、継続審議事項として検討することとし、次回に持ち越した。

議案第6号 海外登山奨励金について

小野寺専務理事が、配布資料をもとに3

隊が評価され、総額80万円を出す提案をした。反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名で異議なく承認された。

議案第7号 雪崩災害防止功労者の推薦について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明し、今回は、推薦対象者なしという提案をした。反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名で異議なく承認された。

議案第8号 基金第2期募集について

望月理事が、画面上に素案を提示し、9月30日締めきり、10月理事会で割り当て、10月末までに振込の日程案を説明し、反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名で異議なく承認された。

7. 報 告

報告第1号 月次報告、キャッシュフローについて

赤尾事務局長が、画面から説明した。6月時点での予算執行割合は23%で現状だと11月ぐらいから要注意となる。8月以降に補正予算を加味した再計算が必要になる(SC強化、収益見込み等)。

報告第2号 アジア山岳連盟30周年事業進捗について

海外から73名参加、日本国内を含め200人弱が祝賀会参加見込み。

報告第3号 4団体懇談会について

小野寺専務理事が現状の説明をした。10/17に行う予定。

報告第4号 指導員認定について、今回は対象なし

報告第5号 自然保護憲章50周年記念シンポジウム協力依頼について

自然保護委員会に情報を提供し、検討している。以下の第6号から第9号は常務理事会で承認済なので、小野寺専務理事が配布資料を読んでおくように伝達した。

報告第6号 クライミングユース世界選手権2024選手派遣について

報告第7号 2025年からのカテゴリー編成について

報告第8号 日新火災西条クライミング体験会について

古賀副会長がJMSCAを代表して参加予定。

報告第9号 アスリートパスウェイ事業謝金について

報告第10号 役員派遣は配布資料のとおりなので各自見ておくように伝達された。

8. その他

望月常務理事が、補正予算の策定方針、調査票を提示するとともに、8月8日理事会、9月度財務委員会、9月に数字確定という大枠日程の説明をした。SC競技、強化の数値により影響がでることを補足した。

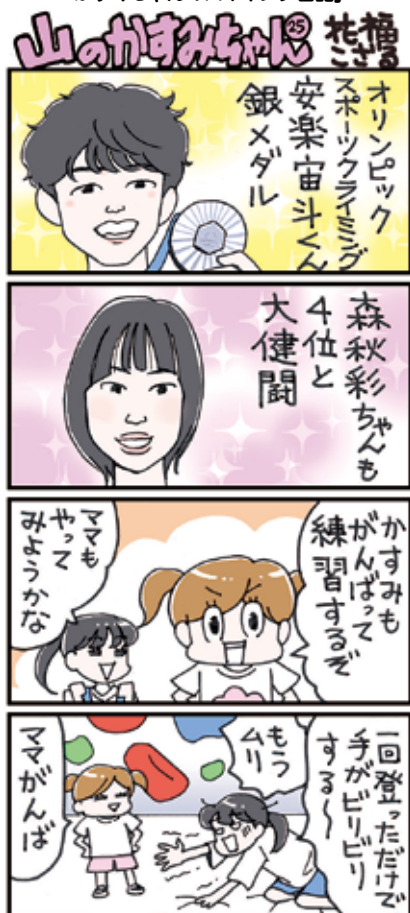
亡くなられた大西氏の状況につき、7月24日日本着予定。長山協、高体連と協議してJMSCAはどうするか確認が必要。

古屋監事が、以下の懸念事項を提言し、理事会としてどう考えるか検討してほしい旨伝えた。

弁護士不在状況における運営、報酬支払の要否、役員選考規程、組織管理運営規程(古賀副会長素案作成予定)、予算管理規程等の見直し、JMSCAビジョンを体系化し戦略、戦術を考える必要性、倫理、処分規程の整備、資金ショート時の対応等。

以上
記録 赤尾 浩一

かすみちゃんのハイキング日記



表紙のことば



白山 弥陀ヶ原

石川県加賀市で誕生した深田久弥の「日本百名山」で、私のふるさとの山は白山であった。とふるさとの山として書かれている。

11月中旬から5月初めの残雪期にかけて、弥陀ヶ原は広く目標物が見当たらずに道迷いの遭難が発生しました。

白山は、高山植物の豊富など、ハクサンと名の付く植物は18種ほどあります。

石川県「郷土の花」に選ばれたクロユリをはじめ、ハクサンコザクラ、ハクサンイチゲ、ハクサンフウロの群生しているところは圧巻ですね。

(石川県山岳・スポーツクライミング協会 遭難対策委員長 甲部芳彦)

編集後記



警視庁から令和5年度の遭難件数に関する発表がありました。遭難件数は増えており、行方不明者は42人です。インバウンド(外国からの旅行者)の遭難件数も増加しています。登山届の提出率はまだ低く、インバウンドの人は登山届を知らないと思うので、「TOZAN-TODOKE」として広める事が有効だと考えます。登山届が普及すれば、遭難事故の早期解決につながると思います。スマートフォンから登山届は簡単にらせるので、出してないの？簡単だよ！となれば良いかなと思います。(松本光顕)

登山月報 第665号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 (毎月1回15日発行)
 発行日 令和6年8月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

9月号
発売中

【特集】東北の山①

～青森・秋田・岩手～

モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトク！

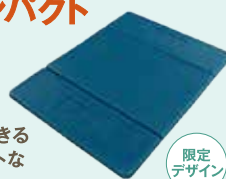
年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ 会員さまには モンベルポイント **5,000P** プレゼント！

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

岳人コンパクトフォームパッド

手軽に携行できる軽量コンパクトなパッドです。



限定デザイン

年間購読特典

岳人カード

全国2,000ヵ所以上で
ご優待！

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから！

<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中！

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15, 16, 17	- 再生可能エネルギーの普及支援 - 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	- 健康づくりの支援 - 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	- 次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） - 災害に強いまちづくりの支援

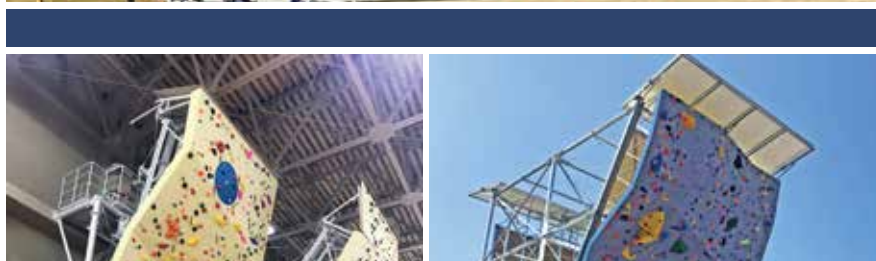
立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数	3,015 件(前年対比 380件増)
遭難者数	3,508 人(前年対比 431人増)
死者・行方不明者	327 人(前年対比 44人増)



2024年版

日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます(www.sangakukyousai.jp)

